

「議員と語る会」新城公民館

令和8年7月3日

質問・要望と議会回答

1 障がい者就労支援の視察先・取組について

【質問・意見】

議会から説明のあった就労支援事業所について、どのような事業所なのか。また、沖永良部島内にも参考となる取組があるので、近隣の施設から学ぶことも必要ではないか。

【回答】

鹿児島市内で児童発達支援、放課後等デイサービス、就労継続支援 A 型・B 型、自立訓練、就労移行支援、相談支援等を行っている事業者を視察した。島内の取組についても関係者から話を伺っており、和泊町等の取組から学ぶべき点は多いと考えている。

2 高校卒業後の居場所・就労の場について

【質問】

障がいのある子どもが高校卒業後に、仲間と活動しながら就労や収入につなげられる場が知名町にどの程度あり、どのくらい利用されているのか。

【回答】

現在、知名町内には質問にあるような就労支援の「作業所」はない。和泊町の事業所へ知名町から通っている方がいるほか、知名町社会福祉協議会では、居場所づくりや販売活動、パソコンを使った学習等の取組が行われている。今回の政策提言を一つの契機として、できることから就労や社会参加の機会を広げていきたい。

3 ICT・遠隔就労等の新しい働き方について

【回答・補足】

オンライン研修では、アバター等を活用した遠隔接客や高齢者との会話、遠隔での業務など、新しい働き方の事例について説明を受けた。島内で実施するためには対象者の把握や参加者への周知等の課題もある。今後も事業者との情報交換や視察を進めたい。

4 特別支援学校等との連携について

【意見・要望】

特別支援学校の進路担当者は、卒業後の就労や A 型・B 型事業所等について多くの知見を持っている。離島の子どもたちの卒業後の就労につなげるため、特別支援学校等とも連携してほしい。

【回答】

総務文教委員会として特別支援学校の視察や関係者との意見交換を行っている。学校現場の知見は重要であり、今後も関係機関との連携を図りながら取組につなげていきたい。

5 伝統産業の担い手確保と若者の参加について

【意見・要望】

島の伝統産業では担い手不足が課題となっている。意見交換会にも中学生・高校生など若い世代が参加し、将来や仕事について意見を述べる機会を設けてほしい。また、地域の伝統を継承する仕事について、議会や地域からも広く声掛けをしてほしい。

【回答】

島の大切な伝統文化・産業を継承する取組の重要性は議会としても認識している。一般質問等で取り上げている議員もあり、行政の取組も含めて情報を共有し、存続に向けて議会としてできることを考えていきたい。

6 障がいへの理解と社会参加について

【意見】

障がいの種類や特性によって、得意なこと、苦手なことは異なる。実際の就労現場では、障がいのある方がそれぞれの得意分野を生かして活躍している。地域全体が障がいへの理解を深め、本人や家族が将来に希望を持てるよう、交流や研修の機会を設けてほしい。

【回答】

政策提言を検討する過程でも、当事者や家族との意見交換を行った。障がいのある方を多くの人に知ってもらうことや交流の機会をつくることが重要だという意見も出ており、今回の意見と共通する課題として受け止めている。

7 上城小学校周辺道路の安全対策について

【要望】

上城小学校周辺から公民館方面へ向かう道路は幅員が狭く、カーブ部分は見通しも悪い。車両の離合が難しく、事故や事故寸前の事例もある。通学路でもあるため、事故が起きる前に道路拡幅等の安全対策を進めてほしい。

【回答】

当該道路が狭く、通学路として安全確保が必要な箇所であることは認識している。地域から過去に要望書が提出されている経緯も踏まえ、地域の皆さんとも協力しながら、議会として行政に安全対策を求めていきたい。

8 就労継続支援 A 型・B 型と障がい者団体の現状について

【質問】

就労継続支援 A 型・B 型の違いを教えてください。また、町内の障がい者団体がどのような活動を行っているのか、現状を把握しているか。

【回答】

就労継続支援 B 型は雇用契約を結ばず、本人の体調や特性に応じて働く仕組みであり、A 型は雇用契約を結んで働く仕組みである。本人の得意分野を生かし、無理のない範囲で仕事や社会参加につなげることが重要である。町内の障がい者団体については、身体障がい者関係の団体や視覚障がい者に関する活動等がある一方、十分に把握できていない分野もある。今後、当事者の意見を把握し、施策に反映できるよう努めたい。

9 島留学制度への意見について

【意見・要望】

島留学制度に対する財政支援について、島内の子どもへの支援とのバランスを含めて検討してほしい。今後、保護者等で意見をまとめ、要望書を提出することも考えている。

【回答】

島留学制度は、児童数が減少する中で学校を存続させたいという地域の議論を背景として始まった経緯がある。島外から来た子どもと地域の子どもの交流することにも教育的な意義があると考えます。一方、制度のあり方に改善すべき点があれば検討する必要がある。

10 中高生と障がいのある方との交流・福祉教育について

【質問・提案】

中学生や高校生が障がいのある方と関わり、生活上の困りごとや支援について学ぶ機会はあるか。若い時期にこうした経験をするすることで、将来の仕事や地域づくりの選択肢も広がるのではないかと。

【回答】

学校生活の中では、特別支援学級と通常学級の交流等を通じて、子どもたちが互いの特性を理解しながら関わる機会がある。また、社会福祉協議会による福祉体験学習として、車いす体験や高齢者疑似体験等が行われた例がある。

11 移住者、町職員の退職と地域定着について

【質問・意見】

島への移住を促進する一方、移住後に地域になじめず島を離れる人もいます。町職員の退職についても、

島外出身者・町内出身者、年代、退職理由等を把握し、定着につながる対策を考える必要があるのではないか。郷友会等とも連携し、島とのネットワークづくりを進めたい。

【回答】

町職員の退職について、島外出身者と島内出身者で差があるという情報は現時点では把握していない。一方、若手・中堅職員の退職や職員採用への応募者減少は課題として認識している。移住者の定着を含め、島を離れる理由の把握については今後の検討課題としたい。

12 公民館周辺フェンスの整備について

【要望】

台風等で損傷した公民館周辺のフェンスについて、各字の状況を確認し、必要な箇所の整備・更新を進めてほしい。

【回答】

公民館は地域の交流や安全確保のための重要な場所である。地域の要望を踏まえ、必要な整備につながるよう議会として行政に働き掛けていきたい。